

由良哲次 つぐひ 哲學・教育學者。明治二十年一月七日奈良縣生れ、昭和五十四年二月二十八日没（八九七一丸）。昭和二年京都帝國大學文學部哲學科卒。東京教育大學、日本大學、明治大學、東洋大學等を経て、東北學院大學を教授、講師を務めた。晩年、雪舟、寫樂等國寶、重文級を合んだ美術コレクションを奈良縣に寄贈。浮世繪協會理事を務め、北齋寫樂同一人物説を發表して注目を浴びた。妻キヨ子は國語學者吉田彌平の次女、英文學者由良哲美はその長男。

譯書に、タゴール著「タゴールの人生論」（土田杏村解説、五版・大正十二年九月）日内外出版株式會社）。著書に「近世教育思想内在觀の研究」（昭和二年九月十日自聖書店）、「經驗的及び先驗的研究」（昭和二年十一月）二十日自聖書店）、「横光利一の藝術思想」（昭和十二年六月）二十日沙羅書店）、「現代人生論」（他田名合著・高山菊次編、昭和十七年十一月十五日教材社）、「ヒットラーと獨逸民族國家」（昭和十九年一月）二十五日國民教育普及會）、「ゲーテの哲學思想と教育觀」（昭和二十一年八月十五日、ひう九月一日富永書店）等。

